

令和3年12月7日開会

令和3年第4回木曾岬町議会定例会

行政報告

町長

皆様、おはようございます。

今年も早や12月、師走を迎え、何かと気忙しい時節となりました。

本日、令和3年第4回木曾岬町議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には全員ご参集をいただき、誠にありがとうございます。

今期定例会には執行部より、令和3年度各会計の補正予算2件、条例改正2件、諮問案件1件など、合わせて5件の議案を提出させていただいております。何卒、慎重審議を尽くしていただきます様にお願い申し上げます。

それでは、只今、議長より許可をいただきましたので、行政報告をさせていただきます。よろしくお願ひ致します。

(新型コロナウイルス感染症について)

始めに、新型コロナウイルス感染症について報告させていただきます。

8月26日に三重県内の新規感染者が515人になるなど過去最大の波となり、本町においても、一旦落ち着いていた感染者が8月に入り頻繁に発生し、8月に10人、9月に11人と連日のように新規感染者が発表され、多くの方が自宅療養を余儀なくされました。

この現状を踏まえ、関係機関と連携して、「自宅療養者訪問看護支援事業」に取り組み、急増する自宅療養者に対するフォローアップ体制の整備を図りました。

その後9月中旬以降、全国的に感染者が大幅に減少し、本町においても、10月4日の発表を最後に本日まで新規感染者の発生は無く、県外発表を含め累計で55人となっております。

一方、ワクチン接種については、1回目、2回目とも他市町より早く順調に進み、続いて、新たな接種希望者や新規12歳到達者を見込み、追加接種期間を8月21日から9月

18日までとし、その後も接種希望者の申し込み状況に応じて、随時ワクチン接種を進め、12月3日現在で、2回目接種者は5,044人、接種率は88.4%でございます。

また、国が2回接種完了後から概ね8ヶ月以上後に3回目接種を行う必要があるとの見解が示され、本町においても、12月から3回目接種を開始しておりますが、新たにオミクロン株が南アフリカで検出され、世界各国で新規の感染者が発表されている現状から、国では3回目接種の前倒しが検討されている状況であり、本町においても感染拡大の推移と国・県の動向を注視し、的確な対応をして行かなければならないと考えております。

今後は、第6波に備え、感染防止対策を徹底すると共に、迅速かつ適切な実施体制の確保等、町民の皆様が安心して暮らしていただける様に万全を期して参りたいと考えておりますので、何卒、ご理解、ご協力を賜りたいと考えているところでございます。

(木曾岬干拓地の状況について)

続きまして、「木曾岬干拓地の状況について」でございますが、去る11月2日、第9回目となる「木曾岬干拓地土地利用検討協議会」が開催され「伊勢湾岸自動車道以南の都市的土地利用計画の方向性について」協議を行いました。

第3期分譲も順調に進んでおりますが、私からは、将来の土地利用に関しては、選択肢を広げるためにも、これから多方面の分野にわたってアプローチを掛け、多くの提案を求めて貰いたいこと。また、工業系、商業系については、もし、工業的利用でなければ、若い人たちや家族連れで出かけて頂ける様な事も期待できる時代にあった利用形態での検討を進めて貰いたいこと。などの意見を述べさせていただくとともに、現状の堤防の雑木や雑草の早期撤去や、交通の利便性と安全性の担保を図るための県道バイパス以外のアクセス道路の早期整備について、愛知県と連携を取って一体的な地域づくりを目指すこと。また、現在行われている環境アセスの期間を短縮すること。などについて強く要望させていただきました。山口地域連携部長からは、今後も地域連

携部だけでなく、関係各部局との連携を図りながら、色々な可能性を検討していくと共に、環境アセスについても制度的な問題が無い部分で短縮できるよう検討していきたいとの方針を示していただきましたので、ご報告させていただきます。

(木曾川左岸堤防耐震・高潮対策について)

次に、「木曾川左岸堤防耐震・高潮対策について」でございしますが、国土交通省木曾川下流河川事務所において、堤防耐震対策として、今年度、鍋田川合流点から上流側に向け、堤防の嵩上工事に着手いただいたところでございますが、早期完成が悲願であることから、去る10月29日、内閣府で、二之湯国家公安委員長兼国土強靱化担当大臣に対し、木曾川左岸や木曾岬干拓地堤防の耐震・高潮対策の早期整備を要望して参りました。

国土交通省に対しては、同日、水管理・国土保全局長ならびに技術審議官に対し、また、11月10日に中部地方整備局長ならびに河川部長に対し申し入れを行ったところ、1

1月18日に中部地方整備局河川部長が来町し、弥富市鍋田干拓地の伊勢湾台風後の復興住宅と急速に企業立地が進む木曾岬干拓地を視察していただき、雑草と脆弱な干拓堤防や木曾川左岸堤防の耐震液状化対策の必要性を訴え、河川防災ステーションから海拔ゼロメートルの輪中の町の課題をご理解いただいたところであります。

また、11月12日には、三重県社会基盤整備協会の要望活動として治水事業促進全国大会に参加し、治水事業の促進のための更なる予算確保などについて決議するとともに、三重県ならびに愛知県選出の国会議員と、国交省および農水省出身の参議院議員に対し要望活動を実施したところでございます。

今後、引き続き関係機関と調整を進め、木曾川左岸堤防の耐震・高潮対策の早期整備に向け、全力を尽くして行きたいと考えているところでございます。

(全国町村会創立100周年記念式典)

最後に、「町村会について」でございますが、全国町村会

は、本年度で創立100周年を迎え、本年2月に記念式典が開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い延期され、11月17日に規模を縮小し、出席者を各都道府県町村会の正副会長及び事務局のみに限定する形で開催されましたので、私も三重県町村会副会長として出席させていただきました。

式典では、「全国町村会創立100周年宣言」として、先人たちが英知を結集し、果敢な行動で幾多の困難に立ち向かってきた歴史をしっかりと胸に刻み、コロナ後の社会を見据え、人の絆、地域のつながりを大切にしながら、全国926町村の多様な価値をさらに発展させ、全国どの地域も活力に溢れ光り輝く新時代を切り拓くため全力を尽くすことを宣言し、続いて、正午から岸田総理大臣を初め所管大臣並びに衆参両議院議長他、多数の来賓出席のもと、全国町村長大会が開催され、

1. 「コロナ後を見据えた経済対策の実施」
1. 「防災・減災対策、国土強靱化の推進」
1. 「東京一極集中の是正と分散型の国づくり」など

16項目の実現を政府に強く求める大会決議をして閉幕いたしました。

節目を迎えた年だからこそ、現在、我々が直面している人口減少・少子高齢社会、新型コロナウイルス感染症など、様々な国難に対して、政府・自治体そして全ての国民が心を合わせて乗り越えていかなければならないと改めて感じさせていただいたところでございます。

以上を申し上げまして行政報告と致します。